

國學院大學學術情報リポジトリ

ビジネス会話における複合動詞の使用状況：
会社ドラマ『ハケンの品格』を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 郭, 翼飛 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001484

ビジネス会話における複合動詞の使用状況 —会社ドラマ『ハケンの品格』を中心に—

郭 翼 飛

論文要旨

近年は外国人の派遣社員が様々な業界で活躍しているが、現実の企業における言語行動を調査対象とすることは困難なので、それに準じて企業における言語行動が写實的に描写されている会社ドラマを資料として複合動詞を考察した。さらに、すでに調査したビジネス会話教科書における複合動詞との間にどのような違いがあるかを見たいうえて、会社およびビジネスにおける複合動詞の使用状況を明らかにした。会社ドラマ『ハケンの品格』におけるビジネス会話資料を対象し、全体としての上位4項目は「売り切れる」「逃げ出す」「打ち切る」「落ち着く」である。ビジネス会話教科書に取り上げられる複合動詞と比べると、「申し上げる」だけ一致している。その原因は教科書に出てきた場面は事務・電話の場面に集中しているためと推測できる。ビジネス場面については今後さらに具体的に細かく分類する必要がある。

1. はじめに

近年外国人の派遣社員が様々な業界で活躍している。留学生のような外国人の派遣については、プログラマーやエンジニアなどの専門性が高い派遣求人も一部あるが、多くは外国語（母国語）を活かす仕事になる。例えば、語学学校の教師や翻訳・通訳など語学力が問われる専門職種、貿易事務や営業アシスタントなどの事務職種の求人も増えている。関根秀一郎は小説『派遣の逆襲』（2009）で派遣社員について作中人物に以下のように語らせている。

…今の派遣業界の「人間を使い捨てにし、代わりの人間はいくらでもいる」といった考え方に怒りがこみあげてきました。

そして、派遣会社の社員だけではなく、アルバイト、また、登録スタッフさんも含め社会的な地位向上を目指し活動していこうと決めました。

日本語学習者はこのような競争社会の中でどの社会地位にあるのか。どのような能力を持てば日本人に遜色なく日本で就職できるのか。まず、言語の面では日本語力を伸ばし、特に仕事に関わりビジネス日本語場面に対応できる日本語会話能力が必要であろう。さらに、ビジネス用語とビジネスに関する知識等を学習し、高度な日本語運用能力を持って、ビジネス関連の仕事に従事できる実用的な人材になれば、就職の中でも余人を以て代えがたい人材となるのではないかと考えられる。

2. ビジネス会話について

今の時代では、日中貿易のようなビジネスをする中で、「通訳」だけでは社会のニーズに応えきれないといえる。社会のニーズの変化によって、企業側が求めている人材は単純な通訳者から、企業経営や経済活動全般に用いられる日本語人材にまで拡大されたとも言える。つまり、日本語による高度なビジネス・コミュニケーション能力を持っている人材が必要とされるようになったのである。

現代の日本語は話し言葉（談話）と書き言葉（文章）に分けられる。本稿では会話における複合動詞を考察する。名柄・茅野（1988）は、書き言葉（文章）と話し言葉（会話）の語彙に関する特徴について、以下のように述べている^{注1}。

書き言葉の特徴

- ・文は長めで、かなりむずかしい語彙も多く使われる。

話し言葉の特徴

- ・文の長さは比較的短く、理解しやすい語彙が多く使われる。

書き言葉と話し言葉の特徴を比べてみると、書き言葉より話し言葉の方が語彙の難易度が相対的に低いようである。ビジネス会話の場合、目上の人間やビジネス相手、顧客と話す場合、言葉遣いに気を使うことは非常に重要である。書き言葉よりも難易度が低い傾向があっても、ビジネス会話を行う場合は、複合動詞の意味を理解した上で正確に使う必要があるだろう。

3. 先行研究と研究目的

3.1 経済ドラマのビジネス日本語会話教材としての可能性

3.1.1 経済小説のビジネス教材としての可能性

諸星（2013）では、経済小説は経済活動の描写の多様性、経済事情・経済用語及び実践的なビジネス日本語の習得に役立つなどの長所があると述べている。また、それをビジネス日本語教材として利用する場合の長所及び留意点を明らかにしている。

その他、劉小俊・徐鵬（2017）は「ビジネス日本語の知識」「日本企業に関する知識」「日本の企業文化」三つの視点から経済小説の上級ビジネス日本語総合教材としての可能性を述べている。そのうち、「ビジネス日本語の知識」はビジネス日本語の教科書には一番重要な学習項目として取り上げられている。ビジネス用語、ビジネス現場での敬語の使い方、電話での対応などのビジネス日本語に関する知識を含め、さらにほかのジャンルの小説にあまり見られない経済活動関連の特殊な語彙が含まれていると述べている。また、専門用語を並べた説明的な文章とは異なり、経済小説はストーリーを楽しむながら経済・ビジネス用語と専門知識を学習することができるという利点を挙げている。

経済学者の堺憲一は「経済小説とは、いろいろな企業や業界、それに関係する人物や経済事件などを描いた小説の総称である。」^{注2}と指摘している。さらに経済小説に基づいて脚本を作り、ドラマ化した作品にはさまざまな企業や業界、および職場のビジネス場面が表現できると思われる。

3.1.2 経済ドラマのビジネス日本語会話教科書としての可能性

桑本（2016）は、話し言葉としての若者ことばの言語資料としてはテレビドラマを利用したデータベースが最も効果的な分析対象となること述べている。質的な要素と量的な要素の2つの視点から連続テレビドラマのデータベースとしての有効性について論述している。連続テレビドラマ（1回60分×10回程度、CMや次回予告を除いて、総時間は約8時間30分となる）は分析対象として適切な分量である。また、そのストーリー展開も日常性が要求されるものと見なせ、ドラマには自然発話により近い状態の会話のやりとりが模擬的ながらも豊富に現れるという会話資料のデータとしての利点を指摘している。

実際の自然発話を収集することは困難であるため、会社ドラマの会話を言語資料として、ビジネス会話の学習に使用できると考えられる。また、ストーリーを見ながら吟味することができ、学習者のモチベーション向上の観点からみても、会社ドラマがビジネス日本語会話教材に利用できる可能性は十分あると思われる。さらに具体的に考えてみると、そのシナリオやセリフを用い、分析することでビジネス場面で使用される頻度の高い複合動詞を分析できると考えられる。

3.2 研究目的

会社で日本人と対等の立場でビジネス活動を行う必要のある派遣社員やアルバイトとしての外国人にとって、さまざまなビジネス場面でビジネス目的を達成するために適当な表現を使うことが重要である。場面や機能による表現の選択を重視して、実際のコミュニケーションの場で応用できる「自然な日本語」習得の必要性がある。しかしながら、「自然な日本語」を評価するには、どのような基準があるだろうか。コミュニケーションをする際、話すことは自己表現の手段であり、就職に限らず日本で生活する非母語話者にとっては、社会に参加し人間関係を構築するための手段でもある。

そのため、実際にビジネスのコミュニケーションの場で使用される「自然な日本語」の習得を重視すべきである。しかしながら、現実の企業における言語行動を調査対象とすることは困難なので、本稿はそれに準じて企業における言語行動が写實的に描写されている会社ドラマを資料として複合動詞を調査する。ことに、会社におけるビジネス会話に見られる複合動詞の使用状況を明らかにし、前項と後項の動詞を考察することで、それぞれ結び付いた後項と前項の動詞からビジネス会話における複合動詞の特徴を明らかにする。さらにすでに調査したビジネス会話教科書における複合動詞との間にどのような違いがあるかを見たとうえで、ビジネスの現場が描写された実用性のある会社ドラマはビジネス日本語会話教材としての可能性を探り、現在のビジネス会話教科書の改善に向けて提案する。また、新しい教材を作る時（文法シラバスでも機能シラバスでも）にも参考となるデータを提供できるのではないかと思う。

4. 『ハケンの品格』の調査について

4.1 『ハケンの品格』について

『ハケンの品格』は、2007年1月10日から3月14日まで毎週水曜日22:00-22:54（JST）に、日本テレビ系の「水曜ドラマ」枠で放送された日本のテレビドラマである（計10話）。本ドラマは現代の派遣社員が主人公であり、生き生きと仕事をする積極的で才能ある女性として描かれている。あらすじは、派遣社員（登録型派遣）として特Aランクの評価を受ける主人公大前春子が3か月契約で、丸ノ内にある食品会社「S&F」の営業事業部マーケティング課に雇われて、職場で様々なビジネス場面に対応して、仕事の問題を解決するというストーリーとなっている。このドラマは主に会社の中で20～50年齢層の登場人物数名が活躍するという場面設定のドラマ作品であるので、派遣会社の社員が使っている会話の研究資料として、複合動詞をその様々な場面から抽出しやすいと考えられる。このような選定

基準で『ハケンの品格』を選択することにした。

4.2 調査方法

時代の発展に伴って、DVDの使用が広い範囲で盛んになってきた。DVDを利用して自宅で使用できるのが学習者にとっては非常に便利である。また、ビジネス日本語教材として会社ドラマを利用するのが可能である。

今回の調査では「ハケンの品格」という連続テレビドラマを用い、そのドラマのセリフの部分を分析対象とする。ドラマのセリフは、字幕と実際に放送したものが違う場合が多く見られるため、調査資料として用いる際に気を付けなければならない。具体的な手順としてはまず、市販されているドラマのDVDを購入し、動画を見ながら字幕を読み、字幕と一致しない部分を聞いた内容に従って手作業で校正し文字化する。次いで、文字化したスクリプトからビジネス会話部分における複合動詞を抽出し、使用頻度を算出するという手順で考察を加えた。

5. 「ハケンの品格」における複合動詞の使用状況

5.1 使用頻度順からみる複合動詞の使用状況

表1. 『ハケンの品格』における出現頻度1以上の複合動詞

出現頻度1以上の複合動詞 (24語 53例)	
売り切れる (4)	仕切る (2)
打ち切る (3)	助け合う (2)
落ち着く (3)	突っ込む (2)
逃げ出す (3)	捻じ曲がる (2)
売れ残る (2)	引き止める (2)
押しかける (2)	引っ込む (2)
書き直す (2)	見つける (2)
掛け合う (2)	申し上げる (2)
勝ち抜ける (2)	やり合う (2)
切り上げる (2)	呼び出す (2)
こぎつける (2)	分かち合う (2)
しがみつく (2)	扱き使う (2)

表2.『ハケンの品格』における出現頻度1の複合動詞

出現頻度1の複合動詞		
歩き出す	切り捨てる	乗り切る
言い切る	凍り付く	乗り越える
行き届く	差し伸べる	弾き飛ばす
生き残る	吸い込む	働き始める
居続ける	出し直す	話し掛ける
撃ち落とす	立ち合う	張り切る
打ち込む	立ち回る	引き上げる
打ち直す	辿り着く	引き受ける
追い払う	食べ損ねる	引き下がる
置き忘れる	使い慣らす	引き寄せる
送り直す	突き落とす	引っ掛かる
落ちこぼれる	付け上がる	引っ張る
思い上がる	吊り上げる	振り払う
思い浮かぶ	連れ込む	惚れ込む
思い出す	閉じ籠る	舞い上がる
思いつく	飛び出す	巻き込む
書き加える	飛び回る	紛れ込む
書き立つ	取り込む	見捨てる
駆け込む	取り下げる	見つかる
勝ち上がる	取り計らう	向き合う
勝ち残る	泣き止む	申し伝える
噛み締める	似合う	呼び合う
切り替える	抜け出す	呼び込む

以上の表1と表2は、ドラマ計10話におけるすべてのビジネス場面の会話資料を対象して抽出した複合動詞である。そのうち、「見つけ出す」「引っ張り込む」が各1例出現しているが、三つ以上の動詞から構成されるものであるため、この2語を対象外とする。これによって、延べ語数は122語、異なり語数は93語である。

ドラマの内容によって、職場におけるさまざまな会話場面が見られる。表1のように、全体としての上位4項目は「売り切れる」(4例)「逃げ出す」(3例)「打ち切る」(3例)「落ち着く」(3例)である。まず、「売り切れる」については、以下のような例が見られる。

- (1) 賢介：大前さん、この分だと、昼休みが終わる前に売り切れそうですから、休憩して下さい。
(賢介→春子 社員→派遣)

(2) 控え室。

春子：あつという間に売り切れちゃったね。

浅野：春子先輩のウグイス嬢、ほんとにすごいですね！

(春子→浅野 先輩→後輩)

(3) 店主：へー、ハケン弁当売り切れたのー。とりあえず、おめでとう！

美雪：ありがとうございます。

(店主→美雪 店主→派遣)

(4) 相田：ねーねー、今日、7時までの契約よね。チョコが売り切れたからお疲れ様って、時給は7時の分まで払ってくれるんでしょね？

(相田→美雪 バイト→派遣)

以上の4例の「売り切れる」は自動詞で、すべて「商品が売れて、在庫がなくなる」という意味である。例(1)「昼休みが終わる前に」と(2)「あつという間に」のように、前に共起している語が「時間を表す表現」+助詞「に」の形を使用する傾向が認められる。また、(3)(4)のように、その売り場の「弁当」と「チョコ」のような「食べ物」が売れている際に使われている。そのため、「〈商品〉が〈時間〉に売り切れる」という表現が売り場で多く用いられる表現と推測できるだろう。

(5) 匡子：あんた達最悪！船が沈みかけたら、さっさと逃げ出すわけ！？

(匡子→社員 同僚→同僚)

(6) 春子：どんなに辛い派遣先でも、契約の3ヶ月は絶対にそこから逃げ出さなかつたわ。あの子よく言ってたわ。一回逃げ出したら、一生逃げてなくちゃいけないんだって。

(春子→美雪 先輩→後輩 派遣→派遣)

(5)(6)に示したように「逃げ出す」は自動詞で、「逃げて、いなくなる」の意味である。(5)の「さっさと」と、(6)の「絶対に」と結び付き、どこか否定的なニュアンスが感じられ、その時点において「逃げ出す」ことには望ましくないイメージを伴っている。部内の仕事仲間の会話場面であるが、派遣社員としての辛さに耐えられなくても、「仕事をやめないで」という気持ちで勧めている。そのため、「一回逃げ出したら、」のような意志的な仮定条件を表す表現も見られる。また、例(6)における「[N1がN2から逃げ出す]」のような共起表現が多く見られ、学習者は覚えた方がいいであろう。

(7) 春子：お話はわかりました。一ツ木さん。出たくもない歓迎会に出て、したくもないお酌をさせられるぐらいなら、クビにさせていただいて結構です。いますぐ、契約打ち切って下さい、と、桐島部長にお伝え下さい。では。

(春子→一ツ木 目下→目上 派遣→派遣会社マネージャ)

(8) 美雪:大変だ!申し訳ございません!ウグイス嬢の村瀬早苗が、契約を打ち切って言って、どこかへ行っちゃいました!

(美雪→春子 後輩→先輩 派遣→派遣)

(9) 美雪:もしもし、森美雪です。今日で、契約打ち切られました。先輩にはほんと、ご迷惑かけっぱなしで…

(美雪→春子 後輩→先輩 派遣→派遣)

以上の3例すべて「契約を中断する」という意味を表す。「打ち切る」は「物事を途中で止め、それ以上は続けない。」の意味の他動詞である。契約が成立すると、当事者は合意の内容に拘束される。会社にとっては契約の成立と解除が重要であるため、「打ち切る」がよく使われると考えられる。学習者は「契約を打ち切る」をフレーズとして覚えたほうがよいと考えられる。

次に、「落ち着く」を取り上げる。意味解釈は次の3つとなる。「①ひとつの場所に定着する(会社に落ち着いた)/②不安定な状態が安定した状態になる(気持ちが落ち着いた・物価が落ち着いた)/③もの静かで、どっしりしている、けばけばしくない(落ち着いた色・態度)」。本稿で調査対象とするドラマの具体的なビジネス会話の場面において、意味②の「不安定な状態が安定した状態になる」のうちの「気持ちが落ち着いた」の意味を表す。例(10)(11)(12)いずれも社員の意志や情緒が不安定になった時に安定させる言葉として使われている。

(10) 東海林:これは失敗じゃない!天パだ!天パだ、これは!

賢介:東海林さん、落ち着いて。

東海林:賢ちゃん、引っ込んで。もう許せない!

(賢介→東海林 同僚→同僚)

(11) 賢介:東海林さん、落ち着いて!

(賢介→東海林 同僚→同僚)

(12) 大前:制御不能の大前が、制御不能になりました!

東海林:落ち着いて下さい!

大前:はい、すみません…

(東海林→大前 社員→派遣 男→女)

5.2 V1 (V2) を持つ複合動詞について

次に、表1と表2に示した複合動詞に多く取り上げられている前項と後項の動詞のうち結合性の高いV1 (V2) を考察する。調査した結果は、以下の表3と表5に示す。

5.2.1 異なり語数を多く持つV1

表3. 異なり語数を多く持つ V1

異なり語数3以上の V1	
V1	複合動詞33語
引き～ (8)	引き上げる、引き受ける、引き下がる、引き止める、引き寄せる、引っかかる、引っ込む、引っ張る
思い～ (4)	思い上がる、思い浮かぶ、思い出す、思いつく
取り～ (3)	取り込む、取り下げる、取り計る
呼び～ (3)	呼び合う、呼び込む、呼び出す
見～ (3)	見捨てる、見つかる、見つける
書き～ (3)	書き加える、書き立つ、書き直す
勝ち～ (3)	勝ち上がる、勝ち抜ける、勝ち残る
切り～ (3)	切り上げる、切り替える、切り捨てる
打ち～ (3)	打ち込む、打ち切る、打ち直す

#括弧の中の数字は該当する前項動詞 V2の異なり語数

前掲の表1と表2に示した複合動詞の出現頻度と違い、表3で示した通りそれぞれ異なり語数を多く持つ V1が見られる。「引き～」「思い～」「取り～」「呼び～」「見～」「書き～」「勝ち～」「切り～」「打ち」の9語の V1 と結びついた複合動詞の数は33語であり、ドラマにおける複合動詞全ての異なり語数の93語の35.5%を占めている。そのうち、「引き～」と結合した V2の数が最も多く、複合動詞は「引っ張る」「引っかかる」「引き下がる」「引き受ける」「引き上げる」「引き寄せる」「引き止める」「引っ込む」の8語である。本稿で扱ったドラマの派遣会社におけるビジネス会話の中に「引き～」による複合動詞が多く見られ、「引き～」の結合性が他の V1より高いと認められる。また、由本 (2013) の「生産性が高い語彙的複合に関わる V1」(表4) と比べてみる。

表4. 生産性が高い語彙的複合に関わる V1 (異なり語数30語以上の語を多い順に配列)

V1	V2の異なり語数	V1の原義
取る	68	取得・除去 (他)
見る	49	知覚 (他)
引く	45	働きかけ・位置変化 (他)
うつ	45	働きかけ (他)
押す	45	働きかけ (他)
言う	39	伝達 (他)
突く	39	働きかけ (他)
書く	36	作成 (他)
切る	33	働きかけ (他)

本稿の「引き～」「取り～」「打ち～」「切り～」「見～」「書き～」はほぼ一致しており、多用されている。なお、以外の「思い～」「呼び～」「勝ち～」は表4には見られないが、会社などでビジネス会話を行う際に個人の立場で意志・観点を表す「思い～」、ビジネスの相手や顧客に向かって会社・名前などを言う意味の「呼び～」、および派遣として「正社員に負けない」のように、また競争の強い社会で他社と勝負する意味を持つ「勝ち～」の3語のV1がこのドラマにおけるビジネス場面で使われている。この「勝ち～」と結び付いた「勝ち抜ける」「勝ち上がる」「勝ち残る」の使用は会社、特に派遣社員が使用する傾向が認められる語と考えられる。

5.2.2 異なり語数を多く持つV2

表5. 異なり語数を多く持つV2

異なり語数3以上のV1とV2	
V2	複合動詞44語
～込む (13)	打ち込む、追い込む、駆け込む、吸い込む、突っ込む、連れ込む、取り込む、引っ込む、振り込む、惚れ込む、巻き込む、紛れ込む、呼び込む
～合う (7)	掛け合う、助け合う、似合う、向き合う、やり合う、呼び合う、分かち合う
～出す (6)	歩き出す、思い出す、飛び出す、逃げ出す、抜け出す、呼び出す
～切る (5)	言い切る、打ち切る、仕切る、乗り切る、張り切る
～上げる (4)	切り上げる、吊り上げる、引き上げる、申し上げる
～上がる (5)	思い上がる、勝ち上がる、付け上がる、舞い上がる
～直す (4)	打ち直す、送り直す、書き直す、出し直す

#括弧の中の数字は該当する前項動詞V1の異なり語数

また、表5で示した7語のV2と結び付いた複合動詞の語数は44語となり、本稿における異なり語数の120語の47.3%に達しており、この7語によって結合している複合動詞は総数の半分に近いと言える。なかでも「～込む」が最も多く使われ、「追い込む」「振り込む」「吸い込む」「取り込む」「駆け込む」「連れ込む」「巻き込む」「惚れ込む」「呼び込む」「紛れ込む」「打ち込む」「引っ込む」「突っ込む」の13語である。この結果は以下の由本(2013)の表6に示した結果と同様にV1の異なり語数が一番多く、V2「込む」の生産性が最も高いことが指摘できる。

表6. 生産性が高い語彙的複合に関わる V2 (異なり語数30語以上の語を多い順に配列)

V2	V1の異なり語数	V2の原義
込む	255	位置変化 (自他)
出す	137	位置変化 (他)
上げる	133	位置変化 (他)
つける	99	位置変化 (他)
上がる	79	移動 (自)
入れる	78	位置変化 (他)
つく	59	位置変化 (自)
出る	49	位置変化 (自)
立てる	49	姿勢変化 (他)
落とす	46	位置変化 (他)
取る	43	取得・除去 (他)
入る	39	位置変化 (自)
かける	38	位置変化 (他)
立つ	36	姿勢変化 (自)
かかる	36	位置変化 (自)

そのほか、「～出す」「～上げる」「～上がる」も由本 (2013) の表6と同様に、生産性の高い傾向が見られる。「～合う」「～切る」「～直す」は表6に見られないが、ビジネス会話では注目すべき語であると考えられる。まず、「～合う」の場合、「助け合う」「分かち合う」のように、相互的に行動するイメージを持っており、社員同士の理解や会社間の協力の場面で多く使われると推測できる。また、上に述べたように「契約を打ち切る」がフレーズとして用いられているが、ビジネスを行う際、契約するのは当然のことである。「打ち切る」は契約に関わる特徴的な複合動詞として扱うべき語であると考えられる。最後に、「～直す」の場合、「書き直す」「出し直す」、「打ち直す」、「送り直す」のように、さらに改善するように、会社や顧客側に改めてもう一度行なう意味を表し、ビジネス会話で多く使用されると考えられる。

5.3 ビジネス会話教科書における複合動詞との比較

次に、「ハケンの品格」のビジネス会話の部分における複合動詞 (表1・表2) と、郭 (2016) で指摘した日本語中上級会話教科書における複合動詞 (表7) を比較してみる。

表7. ビジネス会話教科書における複合動詞

複合動詞	出現頻度	複合動詞	出現頻度
恐れ入る	50	落ち込む	3
かけ直す	22	思い出す	3
申し伝える	22	聞き返す	3
申し上げる	20	切り出す	3
聞き取る	9	繰り広げる	3
取り組む	7	押しつける	2
取り次ぐ	7	折り返す	2
引き受ける	7	買い替える	2
受け止める	6	信じ込む	2
話し合う	6	存じ上げる	2
振り込む	6	出し合う	2
差し支える	5	取り付ける	2
取り上げる	5	乗り越える	2
受け入れる	4	見当たる	2
受け取る	4	申し付ける	2
繰り返す	4	申し出る	2
差し上げる	4	盛り上がる	2
仕上げる	4	割り切る	2

上の表1・表2とビジネス会話教科書に多く取り上げられる複合動詞と比べると、郭(2016)の調査資料に多く使われる複合動詞とはほとんど一致しなかった。その中で「申し上げる」のみ一致している。その原因は「申し上げる」は、基本的な挨拶を表す時に一つの定型句として、目上の人や顧客およびビジネス相手など敬意を払うべき人に対して、うやうやしく言葉を伝える際に用いる謙譲語である。また、特定の話題・場面による使用制限が低く、書き言葉と話し言葉の区別に限らず、「御礼申し上げます」「お詫び申し上げます」のようなフレーズを、挨拶・感謝を伝える時・謝罪する時など幅広く常に汎用されていると考えられる。

また、他の複合動詞と一致していない原因として、本稿で選択したドラマにはさまざまなビジネス会話場面が見られるのに対して、ビジネス会話教科書に出てきた「申し伝える」「かけ直す」「取り次ぐ」「差し上げる」「折り返す」などは事務・電話の場面に集中しているためと推測できる。

数多くの複合動詞を学習するのは大変ではあるが、会社で仕事をする際の様々な場面に対応する会話はさらに多様であると考えられる。そのため、具体的なビジネス会話場面に

よって複合動詞も違って来るのに対して、教科書をどのように編集すれば重要な複合動詞も学習できるのかについて疑問が残っている。そこで、日本語教育で取り上げるビジネス会話教科書の内容そのものに対する学習者の関心を高め、学習意欲を喚起することも考慮し、ビジネス会話教科書の編纂手順として以下のように提案する。

- ①数多くの会社ドラマからその必要とされる複合動詞を含む適切なビジネス会話シーンを抽出し、
- ②それらシーンを「派遣社員向け」「営業マン向け」などジャンル別に分類し、
- ③場面や背景、また対人関係はすでにドラマに設定されているため、ある目的（例えば「顧客に謝罪する」「会社訪問」などのように）で再分類し、
- ④単語リストの部分に意味とコロケーションを提示する。

このように改善すれば、本当の場面に使われるビジネス会話を体験的に実感させ、複合動詞の使用場面と持つ意味、そして共起する表現への理解も深められ、自身の学習目的によって効率的に学習できるのではないかと考えられる。

6. おわりに

本稿は、求めるビジネス日本語会話力の視点から出発し、『ハケンの品格』を対象として、複合動詞の使用状況を調査することで、派遣会社のビジネス会話における複合動詞の出現頻度を明らかにした。ドラマの内容によって、職場におけるさまざまな会話場面が見られる。全体としての上位4項目は「売り切れる」(4例)「逃げ出す」(3例)「打ち切る」(3例)「落ち着く」(3例)であり、語の定義とコロケーションについて考察を加えた。日本人母語話者によってビジネス場面で頻度の高い複合動詞がビジネス日本語教育においても重視すべき複合動詞であると考えられる。これらを提示することで、学習者には複合動詞の習得に役に立つと思われる。また、複合動詞の前項と後項の動詞を考察し、それぞれ結び付いた後項と前項の動詞の数によって順位を配列した。そのうち、「引き～」「～込む」と結び付いたV2とV1が際立って多いことが明らかになった。また、「勝ち～」「～直す」「～合う」は派遣社員としてのビジネス会話に多く出現した語であり、学習者に提示する時重視すべき語であろう。

ビジネス会話教科書に多く取り上げられる複合動詞と比べると、今回の調査資料に多く使われる複合動詞とはほとんど一致せず、「申し上げる」のみ一致している。ビジネス場面については今後さらに具体的に細かく分類する必要があると考えられ、学習意欲を喚起

することも考慮して、ビジネス会話教科書の編纂手順を提案した。現実の企業における言語行動を調査対象とすることは困難なので、このように改善して作成した教科書を利用すれば、「派遣社員」のみならず現実の場面で使用されるビジネス会話を体験的に実感させ、複合動詞の使用場面と持つ意味、さらに共起する表現への理解も深められ、学習目的によって効率的に学習できるのではないかと考えられる。

本稿は「ハケンの品格」を用いたため、「派遣社員」の視点を中心とする複合動詞として限定的なものともいえる。データ量としてはまだ不十分な部分もあるため、今後はさらにビジネスドラマのデータを増やし、複合動詞の使用状況に注目し続けさらなる詳細な分析を行うことも必要である。

注

1. 名柄迪・茅野直子 (1988) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ 文体』荒竹出版
2. 堺憲一 (2001) 『日本経済のドラマ—経済小説で読み解く』(東洋経済新報社) によるものである。

参考文献

- 郭翼飛 (2016) 「ビジネス文書における複合動詞の使用状況」『國學院大學日本語教育研究』(7)
- 桑本裕二 (2016) 「若者ことばの通時研究のための 連続テレビドラマのデータベース利用の有効性について」『秋田高専研究紀要第51号』
- 関根秀一郎 (2009) 『派遣の逆襲』朝日新聞出版
- 諸星美智直 (2013) 「ビジネス日本語教材としての経済小説」『國學院大學日本語教育研究』
- 劉小俊・徐鵬 (2017) 「日本経済小説がビジネス日本語教材としての可能性—中国における上級総合教材の場合」
- 由本陽子 (2013) 「語彙的複合動詞の生産性と2つの動詞の意味関係」『複合動詞研究の最先端 謎の解明に向けて』ひつじ書房